

症例検討会資料

川部店

患者概要

39歳 女性

G病院退院後、初めて外来受診。

併用薬はなく、アレルギー・副作用なし。

処方内容

R p 1

タケプロンOD錠 15mg 1T

分1 朝食後 30日分

R p 2

アリミデックス錠 1mg 1T

分1 朝食後 30日分

R p 3

フラジール内服錠 250mg 15T

マクロゴール軟膏 350g

キシロカインゼリー 50ml

精製ラノリン 10g

マクロゴール 400 90ml

混合・体幹 1日1回塗布

がん性悪臭

乳がんに代表される、局所に進展し、腫瘍による皮膚潰瘍を形成するがんは、そのがん性皮膚潰瘍からしばしば強烈な悪臭が発生する事があり、その頻度としてはおよそ4%程度と報告されています。原因として、トリコモナスや黄色ブドウ球菌などの感染が多く、国際的には、抗寄生虫薬や抗菌剤を軟膏にして外用することが、推奨されています。

日本において現在市販薬として嫌気性菌にスペクトルを有する外用剤は市販されていない状況から、各医療機関において調製を行っているのが現状の様です。

国内・海外ともに文献での報告がありますが、その規格は、ほぼ統一されているとの事です。別紙に参考文献を載せておりますので、ご参照ください。

上記処方調整法を以下に示します。

①フラジール錠を粉碎し、篩過して微細粉化し、少量の精製水（1,2滴）を加え練る。

②①に精製ラノリンを加え練る

③マクロゴール軟膏、キシロカインゼリーを加え練る (性状：固い)

④最後に、マクロゴール400を加えることで柔らかくする。 (性状：柔らかい)